ICA/SPA

記念すべき日本開催は京都で

― 共通項多い専門家団体の状況、決議で明らかに ―

5月14日から18日までの5日間、京都で全史料協の招致によるICA/SPA運営委員会が開催された。初のアジア開催となった京都のICA/SPA運営委員会には日本を含め13名が参集し、議事録確認、10月の国際会議新企画とりまとめ、アーキビストの資格制度に関する各国の状況把握などにつき議論検討した。自由時間には茶の湯を体験し、金閣寺や龍安寺の見学など日本文化を楽しむ機会もあった。会期中全史料協役員会、総務委員会も開催され関係者には忙しい5日間となった。

この締め括り、京都・平安会館での「2007年ICA(国際文書館評議会)／SPA(専門家団体部会)運営委員会全史料協交流レセプション」開催は特筆に価する。全史料協による国際交流の取組みで、日本も含め世界12カ国のアーキビスト団体の現状について、コンパクトな発表を集約的に聞く機会だった。全史料協荻野孝会長の歓迎挨拶に続いて、SPAメンバー12名からの発表は、京都府庁スタッフによる適切な通訳により参加約80名の交流が見事に実現された。日本側参加者からは「もう少し的を絞ってもよかったのでは」との声もあったが、ICA/SPAメンバーは口々に「はじめて世界各国のアーキビスト団体の実態を相互に知り合うよい機会となった」と、この企画を絶賛した。日本でのICA/SPA開催を機に世界のアーキビスト団体の現状が共有され、結果日本を含め各国とも類似の状況にあると知れたのは、世界規模の成果であり、SPAの活動の基盤を明示したと言える。

5月18日の交流レセプションでは、締め括りに次の決議を採択し、成果を確定した。

〔ICA/SPA運営委員　小川千代子〕

決　議

2007年ICA/SPA
運営委員会全史料協交流レセプション
2007年5月18日、京都・平安会館

国際文書館評議会記録管理・アーカイブ専門家団体部会運営委員会（ICA/SPA/SC,以下「運営委員会」）は、2007年5月14日から18日まで、日本の京都で会合を開いた。

この会議の最後に、運営委員会は日本の全国歴史資料保存利用機関連絡協議会（JSAI）との交流レセプション「各国アーカイブズ団体の現状、課題、及び取組みについて」を開催した。

世界12か国の専門家団体の代表である運営委員会メンバーは、各自の所属する専門家団体について発表を行い、聴衆とともに活発な討議と意見交換を行った後、この交流レセプションの参加者一同は、以下の決議を採択した。

1　運営委員会メンバーが属するアーカイブズ団体の大半は、機関会員と個人会員で構成されていること、

2　アーカイブズ団体それ自体は非政府組織であること、

3　アーカイブズ団体の活動状況は、研修、出版、普及活動並びに類縁専門家団体との連携の分野に重点が置かれていること、

4　アーカイブズ団体はアーカイブの振興の基盤を提供し、専門家のための倫理綱領及び模範的実務を支援し、並びに専門家であるアーキビストが必要とする知識と熟達に関する基本要件の策定を行うものであること。

以上の各項目を踏まえ、2007年ICA/SPA運営委員会全史料協交流レセプション参加者一同は

1　専門家団体を構成する機関と個人は、アーキビストに対してよりよい専門業務と活動機会を提供するように努めることで協力することを奨励し；

2　アーキビストを雇用する政府・地方公共団体及び諸機関に対しては、専門分野育成を促進するために、職員の専門的活動を強く支援するよう誘導し；

3　アーカイブに予算配分を行う政府・地方自治体その他の諸機関に対しては、アーカイブズの重要性に対する認識の向上を図り、アーカイブズがその役割を果たすことができるよう、財政的・人的支援を行うことを願い；

4　ICA倫理綱領が包含するアーキビスト及びアーカイブ機関にとっての重要性を強調し、併せてアーキビストは模範的実務に関する情報を発信し、知識を持った専門家としてその専門知識を次世代に引継ぎ、後進指導、研修のために現在行われている諸活動を積極的に推進するよう、強く求める。　以上。